

資料をもとに整理し、まとめる

- ① 1872年学制が定められ、7ヶ月後の4月に安養寺本堂に訓蒙小校が開校<明治6年>
 - ② 永山盛輝筑摩県権令が県内を回って「教育が立県の柱、現今の急務は学校なり」と説く。学校の創設に当たって村民の協力が大きく、苦勞して蓄えた貯金を寄付する人が多かった。「献金の多くは老人婦人など貧しい身でありながら、汗水流して働いた尊いお金を学校教育のために寄付した。これは富裕者の百金を出すより難しく、それだけ万人が見習うべき美挙…後世の龜鑑である。」とたたえられ、15名に褒状と木杯が送られる。
 - ③ 校舎を1875年12月に新築（下市田学校）<明治8年>
 - ④ 県内各地に学校が建築される。
 - ⑤ 1886年3月下市田学校校舎焼失<明治19年>
 - ⑥ 1888年に校舎が再建される。萩山神社参道よりに東向きに建てられ、玄関は名工譽れ高き木曾の宮大工木曾龜こと坂田龜吉が建築する。
 - ⑦ 小川昌成は県下各地の訓導、校長を歴任退職後も大阪で鉱山学、冶金技術を学び、滋賀県で銀の採掘に従事、日清戦争で中止後、大阪からの帰途、飯田に立ち寄ったところを下市田尋常高等小学校の学務委員らの強い要請により1895年6月訓導兼校長に着任。途中転任するも村民の熱望にこたえ、再び校長として復帰、1915年3月退職までの16年の長きにわたって地域教育に尽力する。<明治28年～大正4年>
- ※県歌『信濃の国』作詞者浅井 冽は実兄である。
- ⑧ 教育に対する見識は高く、一坪園芸の考案指導、農業実習、遠足・修学旅行を開始した。また青年教育に努め青年研究会を創設、青年会図書館設立を導く。さらに村内古墳の考古学的研究、出土品の保存に努めるなど、学校教育にとどまらず社会教育、文化財保護の鏑矢（かぶらや）となった。小川先生の薫陶のもと村から多くの教育者を輩出。先生の遺徳を偲ぶ頌徳碑が建立される。<昭和17年11月除幕式>
 - ⑨ その間生徒数の増加に伴って順次増築を重ね、現在のように南面して移転したのは1911年（明治44年）
 - ⑩ 1933年10月統合校舎が完成し、小学校としての役目を終える。（昭和8年）
 - ⑪ 1935年9月からは市田青年学校として、活用される。（昭和10年）
 - ⑫ 戦後、1948年5月より下伊那農業高等学校市田分校（昭和23年）、さらに1958年からは下伊那農業高等学校高森分校として多くの卒業生を輩出。1980年3月に閉校となる。（昭和33年～昭和55年）

- ⑬ 1981年4月旧下市田学校校舎が高森町有形文化財に指定される。
(昭和56年)
- ⑭ この地に下市田保育園が建設されることになり、下市田学校校舎の存続が議論される。地元下市田区の関係者、町内の文化財を守ろうとする史談会や文化財保護団体を中心に町の文化財として後世に残しておきたいとの要望が高まり、保存されることになる。保育園は校庭の東側を中心とした敷地に建設される。
- ⑮ 以後は下市田区の管轄となり、下市田学校愛護会が維持管理。3区高寿会は毎月校舎の外回りの清掃を行い、環境整備に尽力する。
・・・
- ⑯ 高森町教育委員会が下市田学校を管理することとなり、平成の大修理の後、2009年3月に校舎が一般公開される。それを機に「下市田学校応援隊」が組織され、下市田学校の修繕や補修、企画運営補助、自主活動を行うことになる。平素閉められた校舎をもっと今に有効に活かす方法はないかと考え、様々な行事を企画運営することを通して、広く町民の皆様にご覧になっていただくと共にそこでの様々な活動を楽しんでいただけるよう取り組む。〈平成21年〜〉
- ⑰ 現在行っている活動には、春は下市田学校周辺に咲くエドヒガンの花見に合わせ、野点を行う「桜を愛で、抹茶に親しむ会」。ここでは飯田女子高校邦楽クラブの演奏も同時に校内で開催している。
夏は町内の小学4年生から6年生20名を集めて「下市田学校にお泊りしようよ!」の開催。日頃できない様々な体験活動を一泊二日で実施している。
秋には東京から落語家を呼んで木戸銭なしの「おいでてや寄席」の開催。ここ数年は立川寸志独演会を実施。昼には手打ちそばや五平餅を実演販売し、堪能していただいている。
その他、時々新たな催しを実施している。

明治21年創建 下市田学校校舎

洋風建築に唐破風を配し二階に勾欄をつけ、一階正面の簡素な虹梁こうりょうと相まって素晴らしい建築物。中央玄関は名工といわれた宮大工、木曾亀こと坂田亀吉に依頼したもの。2階建ての校舎は村内の寺沢佐藤治ら大工が請け負い、床も高く、壁は腰瓦をつけ、土蔵造りとなっていて、障子と戸板の縦長窓が一定間隔で並び、玄関2階部分の窓との調和があり、和風建築の技が生きている。その後、正面と後部のガラスの引き違い窓になる。左右対称のデザインや、柱を見せない大壁づくりなどは洋風となっている。

資料Ⅲ 下市田学校の新たな活用法

人生の豊富な経験を皆に気軽に披露する会

『 誰もが先生、その道の経験者
教えを請い、教わる集い 』 計画案

- 趣 旨 我々の幼少の頃は人生50年と言われ、60歳を過ぎれば立派なお年寄りで人生の教えを伺い、尊敬したものである。しかるに、それから半世紀以上が経ち、今や『人生100年時代』。高齢者と言われる人たちが世の3割にも達している。人生をリタイアし、それなりに日々生活しているものの自分の経験を生かす、語る場もなく過ごしているのが実情ではなかろうか。
- 一部には小説にしたり、SNSで発信している方もおられようが、折角の身に着けた技能や人生の経験をお披露目することなく終えてしまうのは社会の損失と言えなくもない。
- 気軽に人々が集まり寄り添って、その人の後半生をお聞きするそんな機会が設けられたらと思ひこの会を企画することにしました。それぞれの人生を歩んできた皆さんはお互いにその中身を知らずにいて、自身も振り返ってみることが少ないのではないかと想像する。その人生の最も味わい深い頃の話互いに聞き合うことはその人の新たな一面を知る機会となるばかりか、聞く側の人たちにとって人生をより幅広くすることにつながるのではないかと考える。
- お互いが持っているかくれた貴重な体験を発表しあうことによって、人生を今以上に豊かにし、互いを知り深め合う絶好の機会となりえることと考え、実施することとした。
- 開催場所 下市田学校 2階 おいでてや
- 開催日 毎月 第3土曜日 午前10時～
- 講師 皆様から順次募集 気軽に人生の体験を語っていただく
- 講演時間 自由 場合によっては質問も受け付け
- 余 興 場合により、開始前段で別人が音楽や特技等の披露もあり
- 会 費 無 料
- 参加者 地域に呼びかけ、年齢・住まいに関係なく、だれもが観客可能
- 講師への謝礼 無 (ボランティアでの協力依頼)
- 主 催 下市田学校応援隊
- 後 援 高森町教育委員会
- 今後の予定 参加者が多くなれば、開催日を毎週に変更していくことも
会場は教室もしくは講堂に変更

課題

① イベントのネーミング

② 多くの人たちに集まっていただくためにどう工夫するか

「また何かしらやっているんだ」との受け止めでなく、誰をも巻き込んで参加していただく方法